授業科目名	日本語教授法	単位数	2
担当教員名	奥元（おくもと）さえ美（み）	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）	本科目は日本語教育現場に則した指導内容であり、日本語教育現場、日本語教師養成経験のある教員が実践的な視点から様々な教授法を用いて指導する。		

「学位授与の方針」との関係

多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。

授業の到達目標及びテーマ

・日本語教育におけるさまざまな教授法とその実践的知識を修得する。
・学習者が置かれている環境を理解し、その環境に合った授業が組み立てられることを目標とし、初級教材の分析、コースデザイン、授業展開を理解することができる。

授業の概要

日本語教育における教授法の基本的知識、応用知識、授業に必要な技能を学修し、日本語教授法の歴史的背景、教材、教科書の使用方法、コースデザイン、さまざまな教授法を理解し、それぞれの教授法で初級の授業が組み立てられるようになる。
指導教員の提示する教授法を自分自身に落とし込み、そこから自分らしさを組み入れ、自分なりの授業が組み立てられる知識、技術、方法を学修、体得する。
この科目は単独受講できない。
「日本語教育演習Ⅰ」「日本語教育演習Ⅱ」で教案を作成し実際の授業を組み立てる前段階の科目である。

授業計画

第1回：第1章「日本語教師の役割」
第2回：第2章「日本語を教えるということ①」コースデザイン・ニーズ・レディネス調査・条件分析
第3回：第2章「日本語を教えるということ②」教授法の選定・シラバス
第4回：第2章「日本語を教えるということ③」カリキュラム・教材の選定
第5回：第3章「初級の教え方①」文字/読解
第6回：第3章「初級の教え方②」発音/会話
第7回：第9章「いろいろな外国語教授法1～2」外国語教授法の変遷・近世の外国語教授法 20世紀の外国語教授法・直接法
第8回：第9章「いろいろな外国語教授法3～4」オーディオリンガルアプローチ・コミュニカティブアプローチ
第9回：第9章「いろいろな外国語教授法5～7」TPR・サイレントウェイ・CLL
第10回：第9章「いろいろな外国語教授法8～10」ナチュラルアプローチ・コミュニカティブアプローチ
第11回：第9章「いろいろな外国語教授法11～14」サジェストペディア・内容重視の教授法・タスク重視の言語教授法
第12回：第6章「中上級の教え方」読解教育
第13回：第6章「中上級の教え方」新聞を使った読解教育・レアリア
第14回：第8章「評価と試験3～6」試験の目的別分類・試験の種類・試験の効果
第15回：第8章「評価と試験1～2」評価の種類・評価の対象

スクーリングでの学修内容

1 日目：

・アイスブレイキング
・実際に行われている教授法の紹介 （直接法・間接法・アプローチ・メソッド等）
・直接法での授業を受ける。
・教員の作成した教案に沿って、直接法で行った授業の解説を理解する。
・「みんなの日本語　初級Ⅰ」分析
・教案について
・教師の発話コントロールについて
・実際に教案および副教材を作成する（みんなの日本語　初級Ⅰ　該当課 A→B→C の流れで教案作成)。

２日目：

・日本語指導の準備（コースデザイン・カリキュラムデザイン・評価）
・日本語指導の現場（留学生・年少者に対する日本語教育）
・副教材について
・1 日目の教案作成の続きを行う→プチ模擬授業
・教員からのフィードバック
・まとめ

教科書

・高見澤孟「増補改訂版　新・はじめての日本語教育 2」アスク出版
・スリーエーネットワーク編著「みんなの日本語　初級Ⅰ 第２版　本冊」スリーエーネットワーク

参考文献

高見澤孟著、監修、ハント蔭山裕子、池田悠子、伊藤博文、宇佐美まゆみ（2016）増補改定版「新・はじめての日本語教育Ⅰ」アスク出版

学生に対する評価

スクーリング評価（２５%)、レポート評価（２５%)、科目修得試験（５０%）を総合して評価する。